

太田ゆかりはこう思います! ⑦



移転は、まちの構造を変える

鳥取の防災の歴史を思い起こそう。

昭和2-3(1927-1928)年 千代川の流路の変更

昭和9(1934)年 袋川の分岐、流路の変更

昭和30(1955)年 若桜街道拡幅・防火遮断帯の建設…片原-大工町通りの
拡幅計画

昭和46-50(1971-)年 鳥取駅前火災復興

まちの構造を変えると、大きな投資が必要になる

1. 街路の整備 自動車・自転車、歩行者、障害者交通等施設整備
幅員、交差経路、段差解消、街路照明、公衆トイレ、駐車・駐輪場等
2. 上下水道の容量の確保
3. 電気・ガス等のエネルギーや通信の配線・配管
4. 防災・救急システムの再整備

これらには、市庁舎の建設費を遥かに凌ぐ経費を要する。
市庁舎移転には、産業振興・人口増大の見通し、市財政のゆとりが必要です。